

## TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル2018 Summer Lecture 2018 for Nanoscience/Nanotechnology

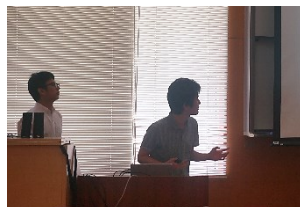
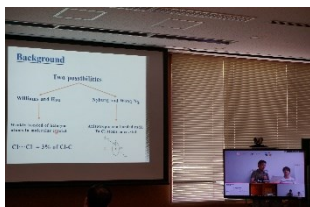


西堀 英治 教授  
 にお話を伺いました

西堀英治 教授  
 筑波大学数理物質系

7月後半から8月上旬にかけて、10日間にわたり開講しました。海外において第一線で活躍されている4名の先生をお招きし、筑波大学で2講義(うち1講義は2名の講師で担当)と大阪大学で1講義を、リアルタイム遠隔講義システムを活用して実施しました。Summer Lecture は筑波大学で実施してきたナノテク拠点産学独連携人材育成プログラム(オナーズプログラム)の主要な活動の一つとして実施されてきましたが、2016年度より講義の内容をナノサイエンス・ナノテクノロジー分野に拡大し、筑波大学数理物質科学研究科と大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センターとの共同開催で実施しています。講義のテーマは「放射光を使った光電子分光の基礎」、「X線散乱と電子密度解析: 方法論と応用例」、「半導体物理と工学、ドーピング、欠陥、光学特性」と多岐にわたる内容となりました。講義は英語で行われ、海外講師による成績評価のうえ、正規履修の合格者は筑波大学大学院における単位(各講義1単位)として認定されます。また正規履修生に加えて聴講目的のみの学部・大学院生、教員等にも講義を開放しました。3講義合計で40名近くの受講生に、トップ大学の著名教授による大学院講義を体験してもらいました。

### 阪大受講生によるプレゼン 筑波大受講生によるプレゼン

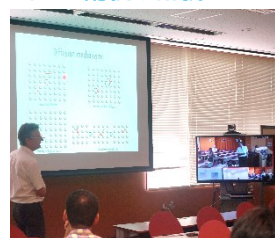


遠隔講義システムではリアルタイムでの遠隔質疑も行うことができ、各講義の最終日には受講生によるプレゼンテーションが行われ、各会場を越えた意見交換も盛んに行われました。講義終了後のオフィスアワーでは、多くの学生の熱心な質問を受け、講義内容のみならず関連分野の理解度を深める一助となりました。

### 阪大配信の講義



### 筑波大配信の講義



### 国際色豊かなメンバーとともに海外大の講義を体験



今夏は、毎日気温35℃を超える暑さで、名古屋などでは40℃を超えるような記録的な猛暑が期間中も続きました。また、6月から例年になく台風も多く、岡山など各地で水害も起こっていました。サマーレクチャー期間中の8月8日(水)夜から8月9日(木)の午前中にかけて台風13号が関東地方に接近したため、急遽8月9日の講義を休校とし、補講を8月10日(金)に行いました。阪大側の参加者も含めた日程調整で何とか無事にやり遂げられ、ホッとしました。今となっては貴重な経験だったと思います。最後に、本活動を支援して頂いた教員を始め学内外の皆様に感謝申し上げます。

期間	2018年7月30日(月)～8月10日(金) ※8月4日、5日を除く10日間
会場	筑波大学 総合研究棟B0110室、大阪大学 吹田キャンパス、豊中キャンパス
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究科、大阪大学ナノサイエンスデザイン教育センター
構成	3講義、各8コマ(+1コマ最終試験の講義あり)
参加者数	41名(大学院生37名、一般4名) ※3講義合計

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。 <https://tia-edu.jp>



●編集・発行・連絡先:

国立大学法人 筑波大学 TIA推進室 tia-edu@un.tsukuba.ac.jp  
 〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1